ユニット4：マハーバーラタの概要：マハーバーラタの主要登場人物の紹介とあらすじ（updated 2010-12-09）

マハーバーラタ Mahābhārata.「大いなるバラタ族（の戦いの物語）」の意．全18編約10万詩節．伝説ではヴィヤーサ（Vyāsa）作．前10世紀頃に北インドのクルクシェートラでおきたバラタ族の親族間の争いを主題とする物語が吟遊詩人によって伝えられるうちに，多くの民間説話が取り込まれて増広され，4世紀頃に現在の形が成立した．10世紀末頃に散文体のパルワ作品として古ジャワ語に翻訳された。

1. 登場人物（登場順と血縁関係による）

バラタ Bharata	北インドの伝説上の王．バラタ族の始祖．
ドリタラーシュトラ Dhṛtarāṣṭra	クル族の王．ハスティナープラに都を置く．パーンドゥの異母兄．盲目．カウラヴァ（クルの子孫）100兄弟の父．
パーンドゥ Pāṇḍu	クル族の王．ドリタラーシュトラの異母弟．パーンダヴァ（パーンドゥの子）5兄弟の父．
クンティーKuntī	パーンドゥの第1妃．パーンダヴァ第1-3子の母．
マードリーMādrī	パーンドゥの第2妃．パーンダヴァ第4-5子の母．
ユディシュティラ Yudhiṣṭhira	パーンダヴァ第1子．クンティーの子．別名ダルマプトラ．
ビーマ Bhīma	パーンダヴァ第2子．クンティーの子．別名ヴァーユプトラ．
アルジュナ Arjuna	パーンダヴァ第3子．クンティーの子．インドラ神の子．
ナクラ Nakula	パーンダヴァ第4子．マードリーの子．アシュヴィン双神の子．
サハデーヴァ Sahadeva	パーンダヴァ第5子．マードリーの子．アシュヴィン双神の子．
ドラウパディーDraupadī	パーンダヴァ5王子の妻．パンチャーラ国の王ドルパダの娘．
ガトートカチャ Ghaṭotkaca	ビーマと羅刹の子．
アビマニュ Abhimanyu	アルジュナとスバドラーの子．
パリークシット Parīkṣit	アビマニュの子．
クリシュナ Kṛṣṇa	ヤーダヴァ族のドヴァーラカー国の王．パーンダヴァの味方．ヴィシュヌ神の転生．
スバドラーSubhadrā	アルジュナの妻．アビマニュの母．クリシュナの妹．
シカンディン Śikhaṇḍin	ドルパダの息子．カーシー国の王の娘アンバーの転生．
ガーンダーリーGāndharī	ドリタラーシュトラの妃．カウラヴァ100兄弟の母．
ドゥルヨーダナ Duryodhana	カウラヴァ100兄弟の第1子．
ドゥフシャーサナ Duḥśāsana	カウラヴァ100兄弟の一人。
カルナ Karṇa	クンティーと太陽神の子．カウラヴァの味方．
シャリヤ Śalya	マドラ国の王子．マードリーの兄．カウラヴァの味方．
ドローナ Droṇa	クル族の軍師．カウラヴァの味方．
アシュヴァッターマン Aśvatthāman	ドローナの息子．
ビーシュマ Bhīṣma	クル族の長老．カウラヴァの味方．

2. あらすじ

第1編「初編」

盲目のドリタラーシュトラは弟パーンドゥに王位を譲ったが，弟の死後王位に就き，パーンダヴァ5王子を引き取ってカウラヴァ100王子と共に養育する．学術・武芸においてパーンダヴァはカウラヴァに優り，両者の間に対立が芽生える（アルジュナとカルナ）．王が後継者としてユディシュティラを指名したので，妬んだドゥルヨーダナは陰謀によって森の中でパーンダヴァを焼き殺そうとする（ビーマと羅刹女ヒディムバー）．危機を脱したパーンダヴァがパンチャーラ国にいたとき，王女ドラウパディーの婿選びの競技でアルジュナが優勝し，彼女を5王子共通の妻とする（アルジュナの12年間の放浪）．ドリタラーシュトラはパーンダヴァを呼び戻し，国を2分して，ハスティナープラをカウラヴァに与え，パーンダヴァには新しくインドラプラスタを都として与えた．

第2編「集会編」

インドラプラスタの繁栄を妬むカウラヴァはユディシティラをサイコロ博打に招く．1回目の勝負でユディシティラは全財産・領土・家族を失い，妻ドラウパディーは侮辱を受けるが，ドリタラーシュトラの取りなしで和解する．しかし，敗者は12年間に森に隠れ住み，13年目は誰にも知られず暮らして初めて帰還できるという条件でおこなった2回目の勝負にもユディシュティラは負けてしまう．

第3編「森林編」

パーンダヴァは森林地帯をさまよい，聖者たちと対話したり様々できごとを経験する．その間，アルジュナは神々から武器を手に入れるためにインドラ神の天界に昇る．

第4編「ヴィラータ編」

追放13年目にパーンダヴァはマツヤ国のヴィラータ王のもとに身分を偽って暮らす．このときマツヤ国を攻めてきたカウラヴァを撃退するのに協力し，13年目が過ぎてパーンダヴァが正体を明かしたとき，ヴィラータ王は彼らと同盟を結び，娘をアビマニュの妻として与える．

第5編「戦争準備編」

パーンダヴァはカウラヴァから王位を取り返す決意を固め，両陣営で戦闘の準備が進められる．いずれにも親戚であるクリシュナは，無防備の自分か軍隊かを両陣営に選ばせ，アルジュナはクリシュナを選ぶ．最後の和平交渉が決裂しクルクシェートラで18日間におよぶ戦闘が始まる．

第6編「ビーシュマ編」

戦いに躊躇するアルジュナを御者になったクリシュナが激励する（バガヴァッドギーター）．カウラヴァの大将ビーシュマがシカンディンによって致命傷を負う．

第7編「ドローナ編」

ビーシュマに代わったカウラヴァの大将ドローナが殺害される．

第8編「カルナ編」

ドローナに代わったカウラヴァの大将カルナが殺害される．

第9編「シャリヤ編」

カルナに代わったカウラヴァの大将シャリヤが殺害され，ドゥルヨーダナも致命傷を負う．

第10編「夜襲編」

18日目の夜，ドローナの息子アシュヴァッターマンはパーンダヴァ陣営に夜襲をかける．ドゥルヨーダナの死。

第11編「女性編」

子を失ったガーンダーリーが嘆く．

第12編「平和編」

ユディシュティラがハスティナープラ国の王として即位する．

第13編「教訓編」

死の床にあるビーシュマが王としての義務などについて教訓を語り，死去する．

第14編「馬祀祭編」

ユディシュティラが馬祀祭をおこなう．

第15編「アーシュラマ編」

ドリタラーシュトラ，ガーンダーリー，クンティーは森に隠棲する．森の大火にあい死去する．

第16編「棍棒戦編」

ヤーダヴァ族は仙人の呪いによって棍棒による内戦の末に絶滅する．クリシュナも自らの使命の終わりを自覚し事故死する．

第17編「旅立ち編」

ユディシュティラは王位をパリークシットに譲り，他のパーンダヴァ兄弟と妻ドラウパディーとともにメール山頂のインドラ神の天界をめざしてヒマーラヤ山へ旅立つ．一匹の犬がつきしたがう．途中，ドラウパディー，サハデーヴァ，ナクラ，アルジュナ，ビーマが脱落する．

第18編「昇天編」

天国と地獄を見たユディシュティラは最終的に他のパーンダヴァ兄弟とドラウパディーとともに天国へ入ることを許される．パーンダヴァの昇天によってドヴァーパラ・ユガは終わり、カリ・ユガが始まる。

参考文献

青山亨 1994「叙事詩、年代記、予言: 古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」『東南アジア研究』32 (1): 34-65.

石井米雄・他編 1991『インドネシアの事典』京都: 同朋舎．とくに「ジャワ文学」「マハバラタ」「バラタユダ」「ワヤン」の項目．

上村勝彦 2002-2003『マハーバーラタ』第1-7巻（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房.

――― 2003『インド神話―マハーバーラタの神々』（ちくま学芸文庫）東京：筑摩書房.

菅沼晃 1985『インド神話伝説辞典』東京：東京堂出版.

奈良毅・他・訳 1983『マハーバーラタ』全3巻（レグルス文庫）東京：第三文明社.

松本亮 1982『ワヤン人形図鑑』東京: めこん.

――― 1996『マハーバーラタの陰に』増補版．東京:八幡山書房.

――― 1994『ワヤンを楽しむ』東京: めこん.

山際素男（訳）. 1991-98.『マハーバーラタ』全9巻．東京：三一書房.

――― 2002『マハーバーラタ：インド千夜一夜物語』（光文社新書）東京：光文社.

――― 2006『踊るマハーバーラタ：愚かで愛しい物語』（光文社新書）東京：光文社.

マハーバーラタ登場人物の名前(ver.1.1)

サンスクリット	説明	ジャワ語
バラタ Bharata	北インドの伝説上の王. バラタ族の始祖.	ブロト Barata
ドリタラーシュトラ Dhṛtarāṣṭra	クル族の王. ハスティナープラに都を置く. パーンドゥの異母兄. 盲目. カウラヴァ(クルの子孫)100 兄弟の父.	ダストロストロ Dastarastra
パーンドゥ Pāṇḍu	クル族の王. ドリタラーシュトラの異母弟. パーンダヴァ(パーンドゥの子)5 兄弟の父.	パンドゥ Pandu. 別名パンドゥデウォノト Pandudewanata.
クンティーKuntī	パーンドゥの第 1 妃. パーンダヴァ第 1-3 子の母.	クンティ Kunti. パンダワ第 1-3 子の母.
マードリーMādrī	パーンドゥの第 2 妃. パーンダヴァ第 4-5 子の母.	マドリム Madrim. パンダワ第 4-5 子の母.
ユディシュティラ Yudhiṣṭhira	パーンダヴァ第 1 子. クンティーの子. 別名ダルマプトラ.	ユディスティロ Yudistira
ビーマ Bhīma	パーンダヴァ第 2 子. クンティーの子. 別名ヴァーユプトラ.	ビモ Bima. 別名ブロトセノ Bratasena、ウルクドロ Werkudara.
アルジュナ Arjuna	パーンダヴァ第 3 子. クンティーの子. インドラ神の子.	アルジュノ Arjua. 別名プルマディ Permadi、ジャノコ Janaka、ダナンジョヨ Dananjaya、チプトニン Ciptaning
ナクラ Nakula	パーンダヴァ第 4 子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.	ナクロ Nakula
サハデーヴァ Sahadeva	パーンダヴァ第 5 子. マードリーの子. アシュヴィン双神の子.	サデウォ Sadewa
ドラウパディーDraupadī	パーンダヴァ 5 王子の妻.	ドゥルパディ Drupadi
ガトートカチャ Ghaṭotkaca	ビーマと羅刹の子.	ガトゥトコチョ Gatutkaca
アビマニュ Abhimanyu	アルジュナとスバドラーの子.	アビマニュ Abimanyu. アルジュノとスムボドロの子.
パリークシット Parīkṣit	アビマンニュの子.	パリクシト parikesit. アビマニュとウタリ Utari の子.
クリシュナ Kṛṣṇa	ヤーダヴァ族のドヴァーラカー国の王. パーンダヴァの味方. ヴィシュヌ神の転生.	クレスノ Kresna
スバドラーSubhadrā	アルジュナの妻. アビマンニュの母. クリシュナの妹.	スムボドロ Sumbadra. アルジュノの第1夫人. クレスノの妹. 別名ロロ・イルン Rara Ireng.
ガーンダーリーGāndharī	ドリタラーシュトラの妃. カウラヴァ 100 兄弟の母.	グンダリ Gendari. コラワ 100 人の母.
ドゥルヨーダナ Duryodhana	カウラヴァ 100 兄弟の第 1 子.	ドゥルユドノ Duryudana. 別名クルパティ Kurupati、ジョコピトノ Jakapitana、スユドノ Suyudana.
ドゥフシャーサナ Duḥśāsana	カウラヴァ 100 兄弟の一人.	ドゥルソソノ Dursasana
カルナ Karṇa	クンティーと太陽神の子. カウラヴァの味方.	カルノ Karna. 別名スルヨプトロ.
シャリヤ Śalya	マドラ国の王子. マードリーの兄. カウラヴァの味方.	サルヨ Salya. モンドロコ国の王子. マドリムの兄.
ドローナ Droṇa	クル族の軍師. カウラヴァの味方.	ドゥルナ Durna. 別名 Kumbayana.
ビーシュマ Bhīṣma	クル族の長老. カウラヴァの味方.	ビスモ Bisma

この他に、現代ジャワ語版では、プノカワンと総称されるアルジュノの 4 人の召使いスマル Semar、ガレン Gareng、ペトル Petruk、バゴン Bagong が登場.

松本亮 1982 『ワヤン人形図鑑』東京: めこん.

R. Rio Sudibyoprono. 1991. *Ensiklopedi Wayang Purwa*. Jakarta: Balai Pustaka.

ユニット4：マハーバーラタの概要：パーンダヴァ誕生以前と死去以後の物語（updated 2010-12-09）

ここではパーンダヴァの誕生以前と死去以後の主な出来事を示す。いずれも主として第1編「初編」で語られている。

1. パーンダヴァ誕生以前の主な出来事

ヴィヤーサ　マハーバーラタの創唱者。パーンドゥとドリタラーシュトラの生物学的父親。

サティヤヴァティーの母親アドリカーはアプサラス（天女）であったが、呪いによって魚に転生していた。あるときウパリチャラヴァス王の精液を飲み込んで身ごもった。魚を捕まえた漁師が腹を裂くと、中から男女の赤ん坊が出てきた。男の子はのちにマツヤ国の王となった。女の子は魚の臭いがしたのでマツヤガンディー（魚の臭いのする女）と名付けられ、川岸の漁師の娘として育てられた。

パラーシャラ仙が川を渡るとき彼女を見染めた。彼女は、処女性を失わないこと、臭いを消すことを条件に彼と交わり、妊娠して男の子を産んだ。マツヤガンディー（サティヤヴァティー）は処女性を回復し、麝香の香りを発するようになった。男の子は成長してヴィヤーサと呼ばれようになった。母に呼ばれたときには母の前に現れるという条件で母親のもとを去って、森の中で修行にはげみ大聖者となったが、醜悪な容姿であった。

ビーシュマ　幼名はデーヴァヴラタ。パーンドゥとカウラヴァの大伯父。

ビーシュマの父はクル族の王シャーンタヌ、母はガンジス河の女神ガンガーである。女神ガンガーが呪いで人間の女に転生していたときに生まれた。シャーンタヌは森の中でガンガーと出会い、ガンガーが子どもに何をしても口を出さないという約束をして結婚する。ガンガーは生まれてくる子どもを次々にガンガー河に投げ込むが、ついに8番目の子どもデーヴァヴラタだけは川に投げ込むことをシャーンタヌは認めなかった。怒ったガンガーは子どもを連れてシャーンタヌのもとを去り、森の中で息子を育てる。のちにシャーンタヌは立派に成長したデーヴァヴラタを見つけ、連れ帰って皇太子にする。

シャーンタヌは森の中で狩りをしているとき、麝香の香りに惹かれてサティヤヴァティーに出会い、結婚を申し込む。父親の漁師は娘の子が王位につくことを条件に結婚を認める。父の悩みを知ったデーヴァヴラタが王位を辞退し、さらに生涯の独身を誓ったので、シャーンタヌはサティヤヴァティーと結婚することができた。この出来事からデーヴァヴラタはビーシュマ（恐るべき人）と呼ばれるようになった。シャーンタヌは、息子への感謝から、恩恵として自分が望む時に死ぬ力をビーシュマに与えた。

シャーンタヌとサティヤヴァティーの間にチトラーンガダとヴィチトラヴィーリヤの二子が生まれるとすぐにシャーンタヌは亡くなった。遺児の後見人となったビーシュマはチトラーンガダを王位につけたが、彼はやがて戦死したので、ビーシュマはヴィチトラヴィーリヤを王位につけた。

ビーシュマは、ヴィチトラヴィーリヤの結婚相手を求めて、カーシー国の王の三人娘アムバー、アムビカー、アムバーリカーの婿選びの儀式に参加した。ビーシュマは競争に勝って、三人娘を連れてハスティナープラに戻った。アムバーはすでにシャールヴァ王に愛を誓っていたため、シャールヴァ王のもとに送られ、ヴィチトラヴィーリヤはあとの二人と結婚した。しかし、彼は子どもを残さないまま逝去した。

王家の断絶を恐れたサティヤヴァティーは、ビーシュマに二人の寡婦と交わって世継ぎをもうけるよう頼んだが（ニヨーガと呼ばれる慣習）、生涯独身の誓いを守るビーシュマは断った。そこでサティヤヴァティーは息子ヴィヤーサを呼び出し二人の寡婦と交わらせ、アムビカーからドリタラーシュトラ、アムバーリカーからパーンドゥが生まれた。交わるとき、ヴィヤーサの容姿に恐れをなしたアムビカーは目を閉じたためにドリタラーシュトラは生まれながらにして盲目であり、アムバーリカーは蒼白になったのでパーンドゥは青白い容姿となった。

パーンダヴァとカウラヴァにとってヴィヤーサは祖父、ビーシュマは大伯父にあたる。

シカンディン　ドラウパディーの兄。アムバーの生まれ変わり。

アムバーはシャールヴァ王のもとに行ったが、彼は、アムバーはすでにビーシュマによって獲得された女であるとしてその求愛を拒絶した。行き場のなくなったアンバーはビーシュマのもとに戻って結婚を迫るが、ビーシュマは拒絶した。ビーシュマへの怨念を抱いて死んだアムバーは、パンチャーラ国の王ドルパダの息子シカンディンとして生まれる。一説によると、シカンディニーという女性として生まれたが、ヤクシャと性を交換して男性になったとされる。バーラタ族の大戦争では、ビーシュマが「女性」であるシカンディンと戦う意志をもたないことを利用して、アルジュナがビーシュマに致命的な矢を放つ。

パーンダヴァにとってシカンディンは妻ドラウパディーの兄にあたる。

ジャワ（インドネシア）では、スリカンディ（Srikandi）と呼ばれ、常に女性である。アルジュナに恋をし、彼か

ら弓術の手ほどきをうけて、ついには妻の一人となる。武芸に秀でた女性として描かれる。

カルナ　太陽神スールヤとクンティーの子。

カルナの母クンティーは、まだ結婚する前の若いころ、聖者ドゥルヴァーサスによく仕えたため、子どもを授かりたいときに唱えれば五回まで願いがかなうマントラ(呪文)を授かった。好奇心から太陽神スーリヤを呼び出し、未婚のまま妊娠してしまう。箱に入れて川に流された子どもは、子どものいない御者の夫婦に拾われ、息子として育てられた。この子がカルナである。

パーンダヴァにとってカルナは父親違いの兄であったが、カルナが死ぬまでそのことは彼らに知らされていなかった。

ドローナ　パーンダヴァとカウラヴァの武芸の師匠

彼の父バラドヴァージャはガンジス河で水浴する天女の裸身を見て欲情し、もらした精液を枡の中に入れておくと、その中から男の子が生まれたので、ドローナ(枡)と名付けられた。

子どもの頃、ドローナはパンチャーラ国の王子ドルパダとともに勉強し、二人は無二の親友となった。やがてドルパダはパンチャーラ国の王となり、ドローナも結婚して息子アシュヴァッターマンを得た。しかし貧しかったのでドルパダに援助を求めたが、ドルパダは、王は王のみを友とすると言って、貧しいドローナを侮辱した。復讐を誓ったドローナは、ハスティナープラに行き、ビーシュマに認められてパーンダヴァとカウラヴァの武芸の師匠となった。

ドローナは、指導の条件として、弟子たちにドルパダを捕えるよう求めた。ハスティナープラの王子たちはパンチャーラ国を攻め、武芸に秀でたアルジュナがドルパダを捕獲してドローナの前に引き出した。ドルパダが謝罪したので、ドローナは彼を許し、パンチャーラ国を二分して和解した。

2. パーンダヴァ死去以後の主な出来事

パリークシット　アルジュナの孫。ナーガ犠牲祭の祭主。

パリークシットの父はアルジュナの息子アビマニュ、母はマツヤ国の王ヴィラータの娘ウッタラーである。パーンダヴァとカウラヴァの戦が始まった日にウッタラーはパリークシットを身ごもった。アシュヴァッターマンの夜襲のときウッタラーは腹部に打撃をうけたため、死産をした。クリシュナの力で死児は生き返り、パリークシットと名付けられた。

パリークシットはマードラヴァティーと結婚し、ジャナメージャヤなどの息子たちをもうけた。ユディシュティラの後を継いで王位につき、60年間善政をしいた。

パリークシットはあるバラモンを侮辱したことから、ナーガ(コブラ)のタクシャカによって噛まれて死ぬ呪いをかけられ、防備の甲斐なく死んでしまった。

ジャナメージャヤは父パリークシットがナーガに噛まれて死んだので、ナーガの犠牲祭をおこなった。この犠牲祭のときに、ヴィヤーサの弟子ヴァイシャマパーヤナによって叙事詩『マハーバーラタ』がジャナメージャヤに対して語られたとされる。

参考文献（追加）

沖田瑞穂 2008『マハーバーラタの神話学』弘文堂.
ドゥ・ヨング 1986『インド文化研究史論集　欧米のマハーバーラタと仏教の研究』、塚本啓祥訳、平楽寺書店.
中村了昭 1998『マハーバーラタの哲学 － 解脱法品原典解明』(上・下)、平楽寺書店.
前川輝光 2006『マハーバーラタの世界』めこん.